国立民族学博物館公開講演会

家族のデザイン

韓国・中国・日本、それぞれの選択

「家族のきずな」を
キーワードに、都市化、少子化、離散化
さらにはIT化などの共通する
現代的でグローバルな社会変容を
受けながら、一見似ているようで、
実際にはそれぞれの伝統的価値観を
持ちつつ、家族のデザインを
再構築している、韓国・中国・日本の
現状を報告します。

平成17年10月28日(金)

会場 日経ホール(日本経済新聞社ホール)　主催 国立民族学博物館／日本経済新聞社

大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立民族学博物館

プログラム

18:00〜18:05　開　会
関口　尚之（日本経済新聞社大阪本社編集局次長）

18:05〜18:10　挨　拶
松園万亀雄（国立民族学博物館長）

18:10〜18:50　講　演①
「『李さん一家』から見る韓国の家族」
朝倉　敏夫　教授

18:50〜19:30　講　演②
「形と紐帯からみる中国の家族像」
韓　　敏　助教授

19:30〜19:35　休憩

19:35〜20:15　パネルディスカッション
コーディネーター
　横山　廣子　助教授
パネリスト
　松園万亀雄　館長
　朝倉　敏夫　教授
　韓　　敏　助教授

目　次

松園万亀雄館長「国立民族学博物館公開講演会によせて」…… 1
朝倉　敏夫「『李さん一家』から見る韓国の家族」…… 3
韓　　敏「形と紐帯からみる中国の家族像」…… 7

ごあいさつ

― 国立民族学博物館公開講演会によせて ―

松園　万亀雄

はじめに

国立民族学博物館（以下、民博）は日本経済新聞社のご協力を得て、平成12年から東京で公開講演会を開催しております。これまで「民族学と現在」（12年）、「民族学と現在－凝集する民族・拡散する民族」（13年）、「エイジレスな時代」（14年）、「国際協力の現場から－人類学者の私的実践」（14年）を取りあげ、昨年は、阪神淡路大震災から10年という節目を直前にして「震災10年が問うＮＧＯ・ＮＰＯ－国際協力への提言」というテーマで開催しました。毎回、ありがたいことに、みなさまからご好評をいただいております。

民博は、博物館をもっている研究所として、日本の民族学・文化人類学研究では中心的な役割を果たしております。民博は大阪吹田市の大阪万博跡地内に1974年、創設されました。民博には現在、民族学・文化人類学および関連分野の研究者が約70名おります。東京でのこの公開講演会は、民博の研究者の研究成果の一端をご紹介すると同時に、関西に立地する民博の存在を関東のみなさまにも広く知っていただき、さらに人類学は面白い学問だということを知っていただくために開催しております。毎年ご協力いただいている日本経済新聞社に、この機会を借りまして厚く御礼申しあげます。

なお、民博の研究分野は設立当時「民族学」の名で呼ばれることが多かったのですが、最近では文化人類学という名前が一般的になってきました。大学の授業科目の名前としても、いまでは民族学ではなく文化人類学が使われています（その他、社会人類学なども）。民博誕生に中心的な役割を果たした学会も創立以来ずっと「日本民族学会」と呼ばれてきましたが、昨年４月から「日本文化人類学会」に改称しました。しかし、「民族学」という名前がいけないというわけではありません。現在でも欧米では、「文化人類学」「社会人類学」などと並んで民族学に相当する言葉がごくふつうに使われています。以下、ここでは民族学・文化人類学を指して、かんたんに人類学と書くことにします。

大学共同利用機関としての民博

民博のような大学共同利用機関も、国立大学法人法により平成16年４月に法人化されました。法人化により民博は「大学共同利用機関法人・人間文化研究機構」の中の一機関になりました。民博のほかには、「国立歴史民俗博物館」（千葉県佐倉市）、「国文学研究資料館」（東京）、「国際日本文化研究センター」（京都）、「総合地球環境学研究所」（京都）が一緒になって、「大学共同利用機関法人・人間文化研究機構」として発足しております。

大学共同利用機関というのは、日本独自の方式として、それぞれの分野において高度な学術研究を進めることのできる中核的な研究拠点として設置されました。国内外の大学研究者その他が共同で利用できる機関として活用されています。このたび平成16年に、人間文化の諸分野を研究する上記の五つの機関が一法人として統合されたわけです。

民博が果たすべき社会的な役割として、まず第１に、大学共同利用機関として、国内・海外の研究者に民博の研究資源を大いに活用してもらい、館内の研究者と一緒になって共同研究を行い、国際的な研究集会を開催し、それらの成果を学会だけではなく市民のみなさまにも広く公開するという役割があります。民博は国内最大の人類学の研究機関ですから、館外の研究者と連携しながら、社会に役立つような研究成果をあげていかなければなりません。

民博の第２の役割として、上記のことと関連しますが、民博がもっている厖大な研究資源を外部の研究者に大いに利用していただく、そのために利用しやすいような体制を整備する、ということがあります。民博は創設以来、文献資料、展示標本、映像音響記録など、世界の諸民族に関する多種多様な文化資源を収集・蓄積しています。その意味で、民博は学術研究機関であるとともに、第一級の「知の貯蔵庫」としての役割を担っています。日本および世界の研究者が共同利用できる施設としての役割をさらに強化していかなければ

なりません。

民博には、このほかに第３の重要な社会的使命があります。それは、すぐれた研究成果を効果的な方法で社会に還元するという使命です。民博では、これまでも世界の諸民族の文化と社会に関する資料や情報を展示・ビデオテーク・研究講演会・ワークショップ・「みんぱく映画会」などをとおして公開し、研究成果の社会還元に努力してまいりました。常設展示のほか、特別展示、企画展示など、展示そのものとそれに関係した講演・パフォーマンスなどの催し物もすべて、民博の研究者の発案と企画で開催されています。

民博では、学校教育との連携をさらに深め、展示場では体験的な展示をふやし、ビデオテークなど情報受信設備を更新するなどのために方策を立て、一部はすでに実施に移されています。こうした点についても、さらにみなさまからのご意見、ご要望をいただきたいと思います。

また、これまでも市民のボランティアには特別展示での応援をいただいておりましたが、昨年から「民博ミュージアム・パートナーズ（ＭＭＰ）」として、民博内で制度的な位置づけをしており、活動を開始していただいております。

民博での研究と催事、展示に関する情報について、詳しくはインターネットの民博ホームページをご覧ください。民博が展示・収蔵している標本24万点の基本情報を公開しておりますし、文献図書資料の検索もできます。また、民博の図書室は市民の方にも開放しており、直接閲覧できます。

特別展では、現在、９月８日から「インドサリーの世界」を開催しています。インドの音楽と踊りのパフォーマンスや講習、映画上映などが相次いで館内で行われています。最近、企画展「みんぱく水族館」「学校が民博と出会ったら」が終了し、現在は「アフリカのストリートアート展」「ポリネシア文化の誕生と成熟」の二つの企画展が開催中です。関西においでの節は、是非とも民博の展示もご覧いただきたいと思います。

講演会テーマ「家族のデザイン」について

今回の公開講演は、「家族のデザイン」と題して、文化人類学がこの学問の出発以来、長年にわたり重要な研究課題として扱ってきた家族・親族・結婚など、世界中のどこの社会にも見られる基本的な人間関係を取りあげます。

家族が時代とともに変わり、文化によって異なることは間違いありません。戦後60年を経て、日本の家族も大きな変化を遂げてきました。少子化・高齢化・晩婚化（または非婚化）のただ中にある21世紀初頭の日本社会において、将来の家族のデザインをどのように思い描けばよいのでしょうか。

ほかの社会の事例を参考にすることで、「これこそ当たり前の家族だ」と私たちが考えている理想的な家族像が、じつは決して当たり前なわけではないことを知ることができます。

日本では、欧米先進国での近年の家族や結婚についての情報はよく紹介されていますが、それに比べて私たちが身近にふれあう機会の多い韓国、中国の人々の家族とその変化については、私たちはよく知らないのではないでしょうか。

韓国・中国・日本の家族には似ているところも違うところもあります。東アジアの家族・親族については、日本の文化人類学が現地調査によって積み上げてきた輝かしい業績があります。

講師の朝倉敏夫教授は1988年に民博に着任しましたが、それ以前から韓国社会の変化を研究テーマとしてきました。韓国の社会組織、民間信仰、食文化など、幅広い分野での業績があります。朝倉さんは、民博特別展「2002年ソウルスタイル」の企画運営を担当しました。この特別展では、李さん一家の持ち物全部がそっくりそのまま民博の特別展示場にもちこまれ、大好評でした。最近は、日本、中国、アメリカ合衆国、ロシア・サハリンなど、海外に居住するコリアン社会の研究を行っています。

もうひとりの講師、韓敏助教授は、中国吉林大学で日本文学を専攻した後、東京大学で文化人類学を専攻し、学術博士を取得しました。2000年に民博に赴任しました。韓さんは、中国の政治経済政策にともなって都市と農村部の漢族社会がどのように変化してきたかを主要な研究テーマにしています。その一部として、毛沢東カルトというテーマを手がかりに、現代中国における社会主義革命の意味と中国人のアイデンティティに関するユニークな研究を展開しています。

パネルディスカッションの司会をつとめる横山廣子助教授は、中国雲南省の少数民族社会の現地調査を続けてきました。それに加えて最近は、ミャンマーに定住している中国系住民について、移住の歴史、社会組織、受け入れ社会との関係などについての研究を展開しています。

「李さん一家」から見る韓国の家族

朝倉　敏夫

2002年、日韓国民交流年を記念して「みんぱく」では「2002年ソウルスタイル―李さん一家の素顔のくらし」という特別展を開催しました。

それは「遠足のとき、となりの子のお弁当のおかずが何か気になって、ちょっとのぞいたことがありませんか？そんな感覚でとなりの国『韓国』の首都ソウルにくらす、李さん一家の生活を見てみましょう。李さんの家がそのまま『みんぱく』にやってきます。展示場で李さんの家にホーム・ステイした気分。子どもたちが通う小学校、お父さんの仕事場、お母さんが買い物をする市場、おばあちゃんの故郷にも案内します。」という展示でした。

今回は、この「李さん一家」を通して、韓国の家族のあり方を見てみようと思います。「李さん一家」は、ソウルのアパートに住む三世代家族です。くらしむきは中流の上、「両班の故郷」といわれる安東の出身であり、古き良き韓国の伝統をたいせつにしようと考えています。

韓国社会では、儒教的な教えが家族イデオロギーの根幹を支え、祖先祭祀を中心とした男系血統中心主義であり、家父長制的な家族制度を作り上げてきました。「孝」の教えを基本とし「長幼有序」「男女有別」といった実践道徳は、李さん一家のくらしの中にも見ることができます。そうした儒教的な規範が、父と子、母と子、夫婦の関係において、どのように守られているかを見てみましょう。

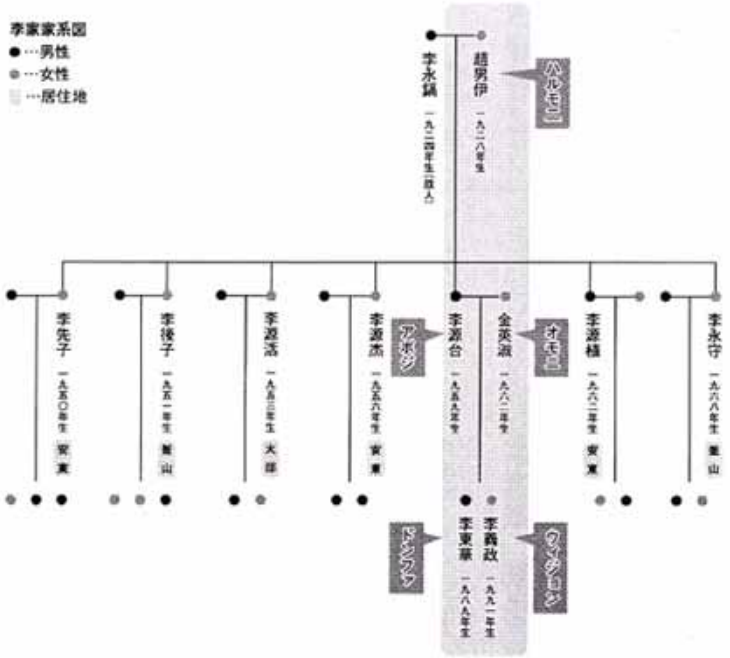
その一方で、韓国社会は戦後、産業化・都市化が急速に進み、「漢江の奇跡」と呼ばれるほどの高度経済成長を成し遂げました。そして、1987年に民主化宣言、1988年にソウルオリンピックがあり、人々の生活も大きく変化していきました。農村部から都市部への人口移動、夫婦中心の核家族の増加など、それまでの家父長制度の理念と現実の生活とは大きく乖離したものとなり、1990年に新しく家族法が改正されました。さらに1997年に「同姓同本不婚制」が憲法違反とされ、2005年には「戸主制度」も廃止されました。

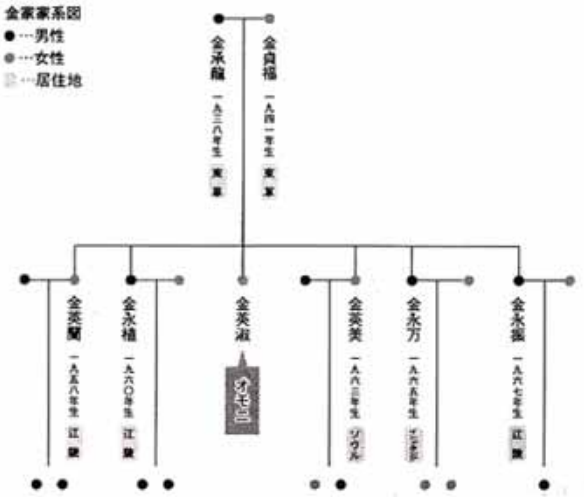
こうした社会変化にともない伝統的な理念が大きく揺らぎ始めている中で、日本社会も抱えている住まい、子どもの教育、老人扶養などの問題を、李さん一家の事例を通して韓国社会ではどのように考えているかも見てみようと思います。

家族のプロフィール

アボジとオモニは、おなじ安東大学で民俗学を専攻した先輩と後輩。べつべつの人生をあゆんできたふたりを、運命はソウルでむすびつける。ふたりが結婚にゴールインしたのは1988年、アボジが30歳、オモニが27歳のときだった。それぞれ仕事をもちながら、愛しあうふたり。たちまちふたりは子どもをさずかり、結婚の翌年にはハルモニを呼び寄せて同居をはじめた。長男ドンファにつづいて、1991年には長女ウィジョンも誕生。李さん一家は5人家族になった。いつどんなことがおこるかわからない現代社会。ハルモニ、アボジ、オモニ、そしてふたりの子どもたちは、楽しいことも、苦しいこともわかちあって、ともにあゆんでゆきたいとねがう、そんな理想の家族なのだ

아버지와 어머니는 둘 다 안동대학에서 민속학을 전공한 선 후배 관계이다. 서로 다른 인생을 걸어온 둘은 서울에서 운명적인 결합을 한다. 둘이 결혼에 골인을 한 것은 1988년, 아버지가 30살 어머니가 27살 때였다. 각자 직장을 갖은 둘이 서로를 사랑하며 꾸민 새살림. 결혼 다음해, 둘은 아이를 갖게 되었고 고향의 할머니를 모셔 같이 생활하게 되었다. 장남 동화에 이어 1991년에는 장녀 의정이 태어나 이원태씨 가족은 5명이 되었다. 언제 무슨일이 일어날 지 모르는 현대 사회에 할머니, 아버지, 어머니, 동화와 의정이는 즐거울 때나 힘들 때나 같이 나누고 함께 하기를 원하는 이상적인 가족이다.





プロフィールは2001年7月1日時点のデータ。掲載の年齢はすべて数え年を採用。

ハルモニ　할머니
おばあさん

趙　男伊　チョ・ナミ
1928年８月25日(旧暦)生まれ　74歳
身長　153cm　体重　55kg　血液型　Ｂ型　好物　ナムルビビンバ
趣味　歌辞作文　特技　歌辞朗唱

７人兄弟のひとり娘として慶尚北道義城郡の両班の家系に生まれる。17歳で結婚し７人の子どもを出産。47歳で夫と死別。百貨店、建設現場、病院の食堂で働き、下宿屋の経営などをして７人の子どもを育てあげる。子どもが独立し、隠居をしようと安東に家を建てたが、1988年に結婚した長男源台夫婦に同居をすすめられ、1989年からソウルでくらす。慶尚道に伝わる歌辞で、嫁ぐ娘におくる教訓などをうたう内房歌辞（ネバンカサ）の名人。故郷義城の文化祭で特技自慢大会に出場し、202名中３位に入賞したのがきっかけとなり、以後大会に出場するたびに受賞する。1996年盤浦３洞漢陽老人亭会長

アボジ　아버지
おとうさん

李　源台　イ・ウォンテ
1959年５月11日(旧暦)生まれ　43歳　韓国文化政策開発院勤務
身長　162cm　体重　56kg　血液型　ＡＢ型　好物　魚料理
趣味　音楽鑑賞、旅行　特技　話すこと(演説)

慶尚北道安東郡吉安面金谷洞に生まれ、11歳まで安東、その後は大邱にくらす。国立安東大学で民俗学を専攻。1981年からおよそ３年間江原道東部戦線で軍隊生活をおくる。大学卒業後、1988年インケルオーディオワールド、1991年儒林アートホール勤務。1991年中央大大学院修了（修士学位）。1994年より韓国文化政策開発院勤務。2000年同院責任研究員を任命される。2001年韓国外国語大学韓国学科博士課程入学

オモニ　어머니
おかあさん

金　英淑　キム・ヨンスク
1962年１月13日(旧暦)生まれ　40歳　主婦、フリーランスのライター
身長　151cm　体重　61kg　血液型　Ｂ型　好物　チゲ(鍋物)
趣味　旅行　特技　コレクション

お菓子工場を経営し、その後ハンボグループの人事部に勤務した父金承鎬と母金貞福の６人兄弟の次女として、江原道束草市中央洞に生まれ、高校まで束草でくらす。1980年国立安東大学に入学し、民俗学を専攻。1984年卒業の２ヵ月前に月刊ピアノ音楽社入社。1986年月刊音楽社入社。1988年に結婚。出産後も音楽雑誌記者として活躍。韓国文芸年鑑執筆。1994年雑誌廃刊により同社を退社後は地域ボランティアに積極的に取り組む。1999年大韓赤十字ソウル支社点字図書室で録音ボランティア。2000年博物館美術館準学芸士資格取得。2002年から文化財行政モニター

ドンファ　동화

李　東華　イ・ドンファ
1989年４月11日生まれ　13歳　盤院小学校６年生
身長　153cm　体重　50kg　血液型　ＡＢ型　趣味　読書　特技　デッサン
ニックネーム　ドンドンイ(ドンドンちゃん。ドンファの名前に因んで)
ウンドンファ(運動靴。ドンファの名前の発音に因んで)
カンドゥンイ(真っ黒けちゃん。ウィジョンと共通のニックネーム)

京畿道議政府市に生まれる。1995年韓信幼稚園入園。1996年盤院小学校入学。1997年東京14泊15日旅行。2000年国土巡礼大行進参加（扶余～ソウル200km）。温和な性格で友人もおおく（ガールフレンドもいる）、好きな教科は社会。将来は博物館で仕事をするのが夢

ウィジョン　의정

李　義政　イ・ウィジョン
1991年５月15日生まれ　11歳　盤院小学校４年生
身長　134cm　体重　28kg　血液型　Ｂ型
趣味　歌をうたうこと　特技　体育、縄跳び
ニックネーム　ウドンイ(うどんちゃん。音が似ているので)
カンドゥンイ(真っ黒けちゃん。ドンファと共通のニックネーム)

京畿道議政府市に生まれる。1995年兄のドンファとともに韓信幼稚園入園。1998年盤院小学校入学。2001年少年韓国日報のツバメ記者活動。2001年宇宙情報少年団団員。体を動かすことが好きで、将来は体育の先生になるのが夢。最近気に入っているのは、「ポケットモンスター」のキャラクター、ピカチュウ

家訓　服従／従順／自律

33号

1995年1月15日創刊
2000年3月15日発行

七色の虹

発行所：137-000 ソウル特別市瑞草区瑞草3666 豊浦渡隣アパート
電話：(02)537-××××

顧問：チョ・ナミ
発行人：イ・ウォンテ
編集人：イ・ドンファ
編集長：キム・ヨンスク

イ・ハンジャンの写真

わたしたち家族の知らせ

◈おかあさんが結婚12年ぶりにわたしたちの家の生活家具の取りそろえを終えた。ノソン家具から購入したソファ、テーブル、ガス・オーブンレンジ、LG「大容水流」洗濯機、食器洗い器、ボタン式自動玄関錠前などが、あたらしい家族としてはいってきた。その間、家を管理してくださった警備のおじさんにもう一度感謝します。

◈ドンファとウィジョンがかよう梨院小学校でミレニアム池の完成式典があった。魚と鳥がいっしょに遊ぶこの池の雰囲気はとても平和で、美しいかぎりです。

◈わが家のコンピュータをアップグレードさせた。インターネット通信ができ、ラムにはDDRメモリを装着し、ハードディスク容量を8ギガ、メモリを64メガバイトに拡張した。

本家・分家の家族がみんな集まった!!

許等、おじいさんの忌祭祀をおこなった次の日、ソウルの本家と分家の家族がおばあさんをつれて、ソウルYMCA写真館で合同家族写真を撮った。陰暦5月なのに秋物の服を取りだして着てカメラの前にたったが、おばあさんは手術の直後であったため、顔が少しやつれてみえる。
（おかあさんの放送記念謝礼会で撮影した）

◈おかあさんが運営している同和企画のソウル青少年演奏会新春音楽会の2回目が、瑞草区民会館で3月17日（金）午後7時30分に開かれる。

◈4年生4班学級文庫「思い出の時間割」が発刊。一年間の学校生活を一目でみることができた。パク・ソンミ先生の真心に感動!!

◈ドンファとウィジョンの99年度学校生活通知簿がでた。すべて「努力がさらに必要である」というのは、担任の先生の助言であった。

オモニは、1996年に1週間、家族新聞づくりのワークショップに参加した。家族新聞に掲げられた「服従／従順／自律」という家訓は、家族新聞の発表会のときにオモニが決めた。人間は幼年期には無条件に親のいうことには服従するが、青年期には自分の意志をもいれた従順な行動をし、成人になってからは自律的にふるまうようにという、子どもたちへのメッセージがこめられている

家族新聞のウェブ版「七色の虹――虹のように美しいわたしたち家族の話」。2002年2月現在のメインテーマは、日本の国立民族学博物館で開催される特別展の紹介。安東でおこなわれた李さん一族の中始祖である李退渓の生誕500周年祝賀式典について。そのほかオモニの書いたエッセイ、家族の動向、家族旅行、来客芳名簿から地域の話題など情報が満載だ。リンク先は韓国文化観光部、瑞草女性会館など家族の日常生活にかかわりの深いサイト。親族との情報交換の場というのが元来の目的であるので「ハルモニがコンピュータを習われた」「今年はお墓の草刈りを9月の第3週にしましょう」などの記事もみられる

くらしのソウルスタイル
컬럼・생활의 서울 스타일

家族のきずなと家族新聞
가족의 유대와 가족 신문

『家族の愛を育てる家族新聞づくり』（チョンソル出版社、2000年）という本がある。小学校の先生と学童たちによって執筆され、「私たちみんながもちたいと思う愛がどっさりつまった家族新聞づくり！最近各学校で家族新聞づくり、学級新聞づくりが盛んだ。こうした活動が活性化されているのは新聞をつくってみることで得られるさまざまな教育効果のためでもあるが、より究極的な目的は新聞づくりを通して、よりよい家族関係、学校生活をつくることにある」と書かれている。この本によれば家族新聞には、父母と子女が対話できる場が用意される、家族のすべてが一緒にできる仕事と遊びについての関心が高まり参与する機会が増える、家族新聞に文を書くことで子女たちがいつのまにか立派な文を書く実力をもつことができる、家族新聞は家族、隣人、さらには社会に対する関心を高める、家族新聞がきちんと積み重ねられれば「家族の歴史」が書かれる、といった機能があるという。韓国の小学校で教育に家族新聞づくりが取り入れられたのは1990年代にはいってからで、80年代に家庭で自発的につくられたのが最初のようである。キリスト教信徒の家庭で、子どもたちの信仰心を育てるための家族運動のひとつとして家族新聞が始まったのではないかという説もあるが、高度経済成長にともない産業化、都市化が進むなかで、家族のきずなを確認し、家族の歴史を見直すために家族新聞がつくられ、普及したのだろう。

最近は家族新聞もＩＴ化が進み、紙からインターネットを使ったホームページに移っている。「家族のきずな」について連載した朝日新聞の記事に（2001年５月３日）、「携帯電話やメールが『原因』で家族が変わっているわけではない。日本でいえば、まず家族のきずなの緩みがあって、それを携帯電話やメールが加速させている。かつては家族がテレビの前に集まり、テレビを通して社会とつながっていた。そんな『家メディア』の時代から、携帯電話やパソコンが普及し、個々人が社会と個別につながる『個メディア』の時代になった」という指摘がある。

日本でも「近代化の中で薄れつつある『血縁』という古風なつながりを、最新の『ＩＴ』をツールとして深めようという人たちがいる」ようであるが、日本よりはるかに強い家族のきずながあり、ＩＴ化が進んでいる韓国においては、遠方の親戚との交流を深め、一族の結束を高めるために、ホームページによる家族新聞が大きな機能を果たしている。（朝倉敏夫）

形と紐帯からみる中国の家族像

韓　　敏

一．はじめに

東アジアは多くの共通点を持ち、互いに親近感を覚えている近隣同士である。そのなかで一番大きな共通点は漢字を共有することだろう。今日の講演のタイトルとなっている「家族」という言葉は、日本にも中国にもある。両方の漢字の形はまったく同じであるが、その漢字の意味する範疇が異なっている。中国語の「家族（ジャーズゥー）」は血縁関係や婚姻関係を基礎として形成された社会組織であり、しかも血縁関係を持つ複数の世代の人々から構成された親族集団を意味する。日本語の「家族」は婚姻関係や血縁関係を基礎とした社会組織という点では同じだが、同じ屋根の下に暮らす世帯のことを意味する。日本語の「家族」に当たる中国語は「家庭（ジャーティン）」になる（以下で使う「家族」の語は日本語の家族を意味する）。われわれは漢字などを共有しながら、独自の文化・社会制度をもち、また、それぞれの伝統を受け継ぎながら、近代化やグローバル化の体験をしてきている。

今日、9割が共働きの核家族である中国の都市部を事例にして、社会主義革命、国家の人口政策、都市化の影響の下に、家族になること、家族ですることの意味、親子関係・夫婦関係の変化を分析し、グローバルな変化を背景に現代中国の家族の変貌をたどってみたいと思う。

二．結婚すること、家族になることの意味

1．親が取り決める縁結びから当事者の意志による結婚へ

＊1950年5月に公布された新しい婚姻法では自由な結婚・離婚、家庭内の男女平等の地位と権利が確定された。

＊1955年からの社会主義改造運動が家族の私有財産を剥奪して、子供の結婚に対する親の影響力を弱めた。

＊男女共学、女性の社会進出によって若者が異性に接する機会を増やし、恋愛の自由度を高めた。

2．「男は外、女は内」から「男女とも外、男女とも内」へ

都市部の9割の家庭は共働き。男性も家事や子育てをやっている。

3．新しい夫婦関係を表す言葉の登場

「愛人（アイレン）」、一把手（イーパーショー）、財政部長、気管炎（キーグァンエン）＝妻管厳（チーグァンエン）、模範丈夫、新「三従四徳」（資料1を参考）

1996年に杭州で行われた結婚式

三．子作り

1．生育のパターンは「早密多」から「晩稀少」へ

都市部では一人の子供、農村部では二人。少数民族はその地域の人口密度などの条件によって、複数の子供の出産が許される。

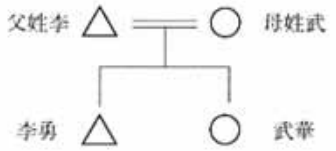
＊　子作りに対する意識の変化：

2003年11月に上海市人口計画生育委員会が18－30歳の20,649人の若者の間で実施したアンケート調査によると、理想の子供の数が１人と答えたのは81.47%、二人と答えたのは13.7%。３人以上は0.35%、子供を作らないと答えたのは4.48%。子供の数が一人と答えた人の理由は順に子供の養育費（55.5%）、自分達の仕事のため、経済負担、子供の就職。

2．子供の姓と名前

婚姻法では子供は父親の姓又は母親の姓を名乗ることができる。

パターン１



パターン２

（母姓を子の名前にする）

パターン３

（母姓の同音字を子の名前にする）

3．子供の教育―「孟母三遷」の伝統が健在

科挙の伝統のある官僚大国の中国では、教育は昔から人生を変える有効な手段として重要視されてきた。エリート志向がいまでも根強く残っている。ただ、政

2001年に張さんが武漢で撮った結婚記念写真

同　上

夕食を一緒に準備している瀋陽在住の夫婦